

小田善一郎さんを追悼して

「ご苦労さん、ここにお座りよ」

私が小田先輩に初めてお会いしたのは、三好鞆男ミヨシ社長の呼び掛けで活動が停滞していた「花葉会」を再生させるにはと、多くの大先輩たちも加わり、岩井さん、魚躬さん、和田さん、小田さん等が中心となつての話し合いの席でした。東京近郊の研究機関からも、研究用の種苗をお世話頂いていた岩井・魚躬の両先輩からのお誘いがありましたもので、気軽に参加して、その場の雰囲気なたじろいでいた私に、「ご苦労さん、そう硬くならずに、ここに来てお座りよ」と声を掛けてくださったのが小田先輩で、ホッとしてお隣に座らせていただきました。

東京パレスホテルでの活動再開

話し合いを重ねるうちに、当時の花卉主任教授であつた小杉清先生を柱に、東京パレスホテルで集会を開くようになりました。会場の選定など得意な私達にとって、東京パレスホテルは夢のような会場でしたが、小田さんが当ホテルの園芸囑託をされていたつてで、盛大に開くことができ、回を重ね、花卉研究室に事務局が置かれ、会則が作られ、今日の「花葉会」ができた陰の功績と私は感謝しております。

SANDER'S COMPLETE LIST OF ORCHID HYBRIDS

私の赴任したところは埼玉県農業試験場越谷市場で、場長の三木康之丞さんは自宅で蘭栽培を行い、埼玉オーキッド会を設立した方でしたから、蘭の生産技術の問題解決のための試験に関心が深く、当時は無菌培養の手法の開発も、ユリやチューリップの促成栽培技術の確立とともに課題として与えられ、先の集会の折などに小田さんから多くの情報をいただき、多少、蘭界の方々とお付き合いもできました。試験研究分野からの委員として洋蘭の種苗特性調査を担当した折には、陰の立場から種々ご指導いただき、私の手元に表記のリスト四冊と、Helmut 氏ほか2名の『The Manual of Cultivated Orchid Species』、Tom & Marion Sheehan の『An Illustrated Survey of Orchid Genera』などの文献もご手配いただいたおかげで、その仕事は無事終わらせることができました。

柳井（山口県柳井市）の花産地振興

いろいろとお世話になる中で、柳井の温室をと、お誘いいただきながら、仕事に追われ伺えずにりましたが、経済産業省の電源地域産業育成支援事業である「柳井市花の産地振興ビジョン」作成委員会の委員に

指名され、縁深き柳井の現地調査に仕事として訪れる機会を得て、小田さんもそれに合わせて柳井に来られ、ご案内いただけるチャンスを得ましたことは、目に見えない糸をしみじみと感じさせられました。

柳井の花は、単に農業として生産するのではなく、まち全体を「花のまち」に構成する3要件として、美しい花を生産するまち、美しい花が咲きこぼれるまち、美しく花をあしらうまち、としています。そうして各地区の主要農作物とあわせた花の生産と景観づくりを企画しています。委員としてはお会いしませんでした、いろいろとアドバイスをされておられたのではと推測されました。

柳井のラン温室と「むろやの園」

委員会終了後、待望の小田さんの柳井にある温室を案内していただきました。カトレアを主体にされた温室は、美しく整然としたもので、多くの花が咲き誇っており、貴重な多くの品種を解説していただきながら拝見し、その後、市内の「むろやの園」へ。そこは小田さんの先代が東京へ移れるまでのご実家で、元禄元年にご先祖が商いを始められたところでした。



小田氏近影
(ご遺族ご提供)

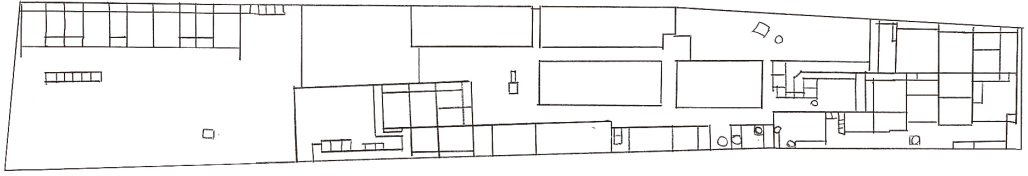
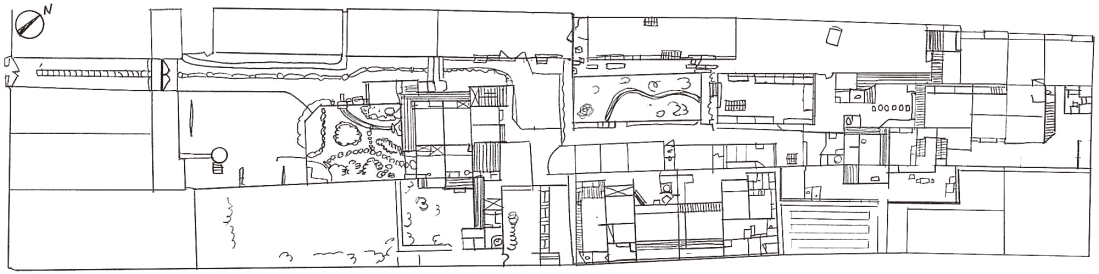
むろやは油商をされておられた時の屋号「室屋」からで、南北119m、2,561㎡の敷地には11棟35室の江戸中期の屋敷構えがそっくり残されたもので、我が国に現存する町屋のなかでは最大のものといわれています。

この建物に小田家が使われていた生活用具1,553点、文書1,011点を展示し、商家博物館として、自ら公益財団法人 小田家博物館理

事長を務められ、蘭生産に加えこの分野にも力を注がれました。建物と展示品のすべては山口県の有形民俗文化財に指定されています。

そつと人の脇に立ち、手を差し伸べて人を立たせる小田さんのご厚意に感謝し、ご冥福を祈りつつ筆を置きましょう。

村井 千里 拝 (昭和32年卒)



上段：むろやの園 概略
下段：小田家 古図 概略